

## 活動① 『 雨の日散歩 』

### 活動テーマの設定理由

- ・雨の日散歩を楽しむ。
- ・この時期ならではの自然を見る・触れることを楽しむ

### 活動内容

- ・雨の日の散歩を楽しむ
- ・水たまりに触れる
- ・アジサイやカタツムリなど、この時期の自然物や生き物に触れる

### 用意する物

- ・レインコート ・長靴

### 子どもの姿からの気づき

- ・2人の子どもは前日母と行ったことで「カタツムリはいなかったから今日もない」と言いながら出発したが、出発早々にカタツムリに出会えたことで「もっといるかな」とすぐにワクワクに変わった。
- ・2人のこどもは前日母と雨の日散歩をしていたことで自ら水たまりの中に入って跳んだり触ったり楽しみ始める。初めて行う子どもは、それをはじめは見ているだけだったが、その姿を見る、または保育者に誘われることで水たまりに触れ笑顔が増えていき帰り道には「楽しかった」の声を聴くことが出来た。
- ・はじめ保育者が手のひらに乗せたカタツムリを見ていたが葉っぱがあるのを見て「くっつけたい」との声があがる。葉っぱに乗せると「立たせたい」と言う。
- ・簡単なルールを守りながら(カタツムリはバイキンがいるから触れずに見るだけ。保育者は手袋をしているからOK。人の家の前や車が止まっている近くでは、水



たまりであそばない。車が来たら端に寄る。など)楽しくあそんだ。

- ・屋根の上から落ちてくる雨水は空から降る雨の落ち方とは違うことを不思議に思い興味を示していた。
- ・屋根の雨水を「ここに入れたい」と両手でお皿を作りためようとしたが、うまく貯められないことに気づき、最初に触れた水たまりに戻って楽しみたいと訴える。
- ・雨水が多く落ちてくる場所で腕を出してもレインコートを着ていると濡れないことに気付いた。
- ・水たまりでのあそびを一通り楽しんだ後「葉っぱを動かしたい」という声があった。浮かべた後「葉っぱをボートにしたい。アリさんを乗せたい」と言う。数種類の葉っぱを浮かせてみると「これは浮いた」「これは沈んだ」など葉っぱの種類や大きさにより違うことに気付く。気付いたことで今度は「棒を浮かせたい」の声になり、小枝を探して浮かべてみる。棒はすぐに沈んでしまうと「沈んだ」と口にし、再び棒を拾ってくることはなかった。
- ・これから始まる夏のあそびの導入として(水あそび・泥あそびなど)『こぐまちゃんのみずあそび』の絵本を何度も読んでいた。絵本に出てくる“葉っぱのボート”を思い出し、そこから「葉っぱを浮かせたい」という声につながった。
- ・今度は「浮かせた葉っぱを動かしたい」という声があり、ただ浮かせているだけでは動かないことに気付く。保育者が手で水たまりを回したり揺らしたりする姿を見て“足でもできるのでは?”と思い足で水たまりを踏むなどして揺らす姿があった。
- ・一通りあそんだ後に水たまりをのぞき、自分の姿が映っていることに気付いた。その姿を見て他の児も一緒に水たまりをのぞき興味を示す。

#### 振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

- ・「葉っぱをボートにしたい」「アリさんを乗せたい」という声があったので路上ではなく安全にあそべる園庭にたらいを出し、泥の水たまりを作ってみるなどしていきたい。また、様々な葉っぱの種類(大きさや固さの違うもの)を用意し、浮き方の違いを発見できるようにしていく。「アリを乗せたい」という思いに対しては、命の大切さ(アリは水の中では生きていけない)を伝えつつ子どもの思いは尊重し、代わりになるものを用意していく。
- ・「水を手のひらに入れたい」という思いに対しては、水を入れられるもの(プラカップなど)を用意していく。
- ・雨の日散歩の写真を子どもと一緒に見ながら楽しかったことを振り返る。手の中に水を入れられなかったことを思い出す声を掛け、代わりになるものを提案していく。代わりになる物を制作として作ることで更に次の雨の日散歩を楽しみに待てるようにしていく。
- ・一通り水たまりであそんだ後に同じ場所へ戻ったことで、新たなあそびが広がっていくことに気付いた。水たまりに限らず日常のあそびの中でもじっくりあそぶことで更に新たなあそびが広がっていくことにつながっていると思う。すぐにあそびを切り上げるのではなく、じっくり見守っていき必要に応じてあそびにつながるもの(今回であれば葉っぱやコップなど)を提案していくことが大切だと感じた。



## 活動② 『 どんこあそび 』

### 活動テーマの設定理由

前日の雨の日散歩で「葉っぱをボートにしたい」という思いがあった為、園庭でタライに水を入れて葉っぱを使用したあそびを計画した。しかし気温が低かったことを考慮し、泥あそびに変更した。

### 活動内容

- ・保育者が様々な種類の葉を用意し楽しめるようにする。
- ・砂場側と園庭側、環境の違う中で・導入として葉っぱのボートが出てくる『こぐまちゃんの水あそび』の絵本を読む。
- それぞれの泥の感触の違いを楽しめるようにする。

### 用意する物

- ・日よけシェード ・カップ ・シャベル ・バケツ

### 子どもの姿からの気づき

#### 砂場側

- ・シャベルで線を描き「こうして」「ここに入れたい」と言う。保育者も一緒に道を作る。1人の子どもがバケツを持って水を入れると他の子どももやってきて興味を持つ。
- ・保育者が穴を作りその中に水を入れると、すぐに砂に吸収され水がなくなることを不思議に感じ興味を持つ。それを何度か繰り返しているうちに自分でも小さな穴をあけ「ここに入れたい」と言う子どもがいる。
- ・砂に吸収された様子を見て「白くなっている」「泡もある」という声がる。



・水を流した穴の中に葉っぱを入れてみる。しかし水が土で濁っていた為見えず、「見えなくなっちゃった」と口にする。そして別の葉っぱを今度は砂場のふちに並べその上に泥を乗せて「かくれちゃった」と口にする。

#### 園庭側

・園庭側に泥を作ると、その中を歩こうとする為、裸足になってみる。はじめは汚れることを気にする姿もあったが、洗えば落ちることを話す。裸足で泥に触れる感触が楽しく、喜ぶ姿もある。

・葉っぱを持ってきて浮かせようとする子どもがいる。浮いているだけで動いていない葉っぱを見て、手や足で水を混ぜ動かそうとする。

・日頃の砂場あそびから手の汚れが気になる子どもは、初めのうちは手の汚れを気にしながらあそんでいたが夢中になるにつれその姿はなくなる。保育者がその子供の手を泥で埋めてみると「もう一回」とリクエストをしてくる。何度かやると自分でシャベルを持ち片手を泥で埋め始める。

・シャベルで泥水をすくいそれを持って立ち上がっては自分の目線でシャベルを傾け「雨」と雨に見立てる。

・日頃、室内でも戸外でもなかなかあそびを見つけられないAさん。この時は自分から砂場玩具を次々と取ってはシャベルで水をすくったり、トレーに泥を乗せたり、泥の中を歩いたり、じっくりあそんでいる。お迎え時も母を園庭に連れていき嬉しそうに話していた。

#### 振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

・雨の日散歩の翌日に泥あそびを行ったことで、「葉っぱのボート」を浮かべたことを導入の時点ですぐに思い出していた。2歳児という低年齢なので、余韻が残っているうちに次の活動を実施できたのは良かった。

・はじめは汚れを気にしていた子どもたちが楽しさを十分に感じることで、後半は自分の手や足に自ら泥を付けて楽しむ姿が見られていた。洗えば落ちることを伝え自分で泥水の中で実際にやってみてきれいになることを実感できたことが大きかったのかもしれない。次回は小麦粉、片栗粉、寒天、フィンガーペイント、泡など色々な素材や感触を楽しみたい。

・なかなかあそびを見つけられないAさんが積極的にあそびに参加して楽しんでいた。お迎え時に母を園庭に連れていき楽しかったことを一生懸命報告していた。様々な子どもたちの新たな一面(興味あるあそびなど)を引き出していけるように様々な経験の場を用意していきたい。



## 活動③ 『 感触あそび 』

### 活動テーマの設定理由

②で泥の感触を楽しんだので小麦粉や寒天など違う感触に触れようと思った

### 活動内容

- ・小麦粉粘土(小麦粉、油、塩、シート、ボウル)
- ・フィンガーペインティング(模造紙、絵の具、画用紙、ジップロック、洗濯のり、ブルーシート)
- ・泡(ボウル、泡立て器、石けん、スポンジ)
- ・氷(製氷皿、食紅、水、ボウル、レンゲ、ペットボトル)
- ・寒天(カップ各種、レンゲ、型抜き)

### 用意する物

- ・ラミネート ・コピー用紙 ・カラーインク ・養生テープ

### 子どもの姿からの気づき

- ・粘土 作っていく過程から見ていくことで、2歳児クラスの子どもたちは粘土になっていく過程も興味を持って見ていた。  
なかなか室内ではあそびを見つけられない A さんが夢中になってあそんでいた。  
1歳児は2歳児のあそぶ姿を見て興味を持ち“やってみたい”の姿に変わっていった。
- ・水 『じゃぐちをひねると』の絵本を導入で読んでいくことで、同じようにやってみようとする姿があった。(後半は1歳児も)
- ・氷 同じ赤でも食紅の濃さにより氷の色が違うこと、赤と黄色が混ざるとオレンジ色に変化することに気付く子どもがいる。



色水づくりの際、クリーム色の机の上に青色の水がこぼれると、水の色が緑色に変化することに気付く子どもがいる。

氷作りを2歳児の子どもがやっていると、1歳児の子どもが興味を持ち参加する。

氷が溶けると色が変わることが分かったと、溶けるのを楽しみにする姿も見られた。

- ・絵の具 始めのうちは色の名前が分からなかった c さん。ひたすら塗ることを楽しんでいて、少しづつ色を覚えていく中で白と赤の2色が混じることで色が変わることに気づき「消えた」と不思議そうに話す。

色の名前を覚えていくことで白と赤が混じっていく過程を見て「もっとピンクにしたい」と理想の色を作ろうとする姿があった。

- ・絵の具 ペインティング スタンプあそびを一通り楽しむと「触ってみたい」との声があがる。そこでフィンガーペインティングを行った。

初めてのことが苦手な B さんは、はじめ不安そうな表情を見せていたのでジップロックに画用紙と絵の具そして感触を楽しめるようにでんぷんのりを入れて出してみる。何度か手の汚れを気にする姿があったが、汚れないことが分かると絵の具を伸ばしてあそぶ姿があった。

腕に塗った絵の具が乾いてくることで感触や見た目が変わることを知り、「固くなった」と口にする。

・“いろいろばあ”の絵本を読んだ後に絵の具あそびをすると、「紫色を作りたい」とストーリーと同じようにやってみようとする姿があった。

・はじめは手で触ることに抵抗を感じていた子どもが繰り返し行うことでダイナミックになっていく姿があった。

- ・寒天 初めてのことが苦手な B さんがゼリーのような色あいや見た目だったからか？はじめから抵抗なくむしろ意欲的にあそんでいた。

目の前の寒天に一瞬不安そうな姿を見せる1歳児がいたが、周りの他児が楽しそうにあそぶ姿を見て興味を持ちそこからじっくりあそび込む姿があった。

入れ物を見て想像しながらカップラーメン・パスタなどに見立てあそぶ姿があった。

- ・泡 固い固形石鹸をすりおろすことで、フワフワの感触に変わる、更に水を入れ混ぜることでクリーム状へと感触が変わっていくことへ気付く姿があった。



## 振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

- ・粘土 粘土が出来る過程をも楽しむ2歳児、出来たもので楽しむ1歳児と年齢によって差があった。あそびの提供の仕方を年齢によって考えていく。
- ・A さんが夢中になってあそぶ姿を見て、粘土などの感触あそぶ姿を見て、粘土などの感触あそびが常に自分で出せる状態になっていれば好きなあそびをじっくり楽しめるようになるのかもしれないと思った。
- ・氷・寒天 準備の段階から一緒に行っていくことで翌日の活動を楽しみにする姿がある。作る過程から楽しんでいくことも大事にしていきたい。
- ・氷・絵の具あそびを通し、2つ以上の物が混ざると色が変わることに気付き、「ブドウの色を作りたい」「違う色も作ってみたい」の声が上がる。次回は色水あそびをしていきたい。
- ・寒天あそびは使うカップを変えることで、更にイメージを膨らませあそぶ姿もあり、用意する環境の大切さを再認識した。
- ・一人あそびを黙々としていることが多かった1歳児のDさん。寒天づくりや氷作りなど2歳児の子どもの取り組みに興味を持ったことをきっかけに、他児のあそびに興味を持ち、輪に入り少しずつ他児との関りが見られるようになる。興味の大切さを改めて感じた。
- ・色を覚えることで、色水や絵の具あそびは更に楽しめるようになるのだと思う。色に興味を持てるような環境作りも大事。
- ・一時間ほど楽しむ姿もあった。満足するまであそべる環境が大事。



## 活動④ 『 色水あそび 』

### 活動テーマの設定理由

氷、絵の具あそびを通し色が混ざると色が変わることに気付き、「ぶどうの色を作りたい」「混ぜたい」などの声があがった為、色水あそびを設定した。

### 活動内容

- ・色水シアターを見る(ペットボトル・絵の具・水)
- ・室内で色水でジュース屋さんごっこをする(洗面器・ボウル・水・食紅・レンゲ・ペットボトル)
- ・ダイナミックに楽しめるように外でも色水あそびを行う(洗面器・氷・ボウル・カップ・レンゲ)
- ・お花紙を使って好きな色のジュースを作ってみる(お花紙・ペットボトル・スプーン・カップ)

### 用意する物

- ・絵の具 ・ペットボトル ・ボウル ・カップ ・レンゲ
- ・氷 ・水でっぼう ・水あそび用水車

### 子どもの姿からの気づき

- ・1歳児は混ざると色が変わることに気付く。2歳児は色の名前を理解している子も多いので2つの色を合わせると新しい色になることに気付く。
- ・色に関しての絵本(いろいろばあ)を出しておくことで〇色と〇色を混ぜると△色になるからつくってみたいなど、更に興味が出てきた。
- ・はじめは色が分からず、水あそびの延長で楽しんでいた CさんとDさん。色を少しずつ覚えてくることで色の変化を楽しむ姿や、「この色を作りたい」の姿に変わっていった。



振り返り(次回のテーマ、どんな環境設定をするか)

- ・色水を用意することでジュース屋さんごっこなど子どもたちのあそびの幅が広がった。
- ・色に対して興味が薄かった子どもたちがあそびを通して色に対して興味が広がった。
- ・年齢が低い子どもたちなので室内で色水あそびをするよりも、水あそびの中で色水に触れていく方が思いきり楽しむ事ができた。
- ・年々暑さが増し、水あそびができる機会が減っている。室内でも気兼ねなく水に触れ楽しめる環境を作っていきたい
- ・お花紙を使用することで、食紅よりも選べる色の幅が広がりより楽しめた。

